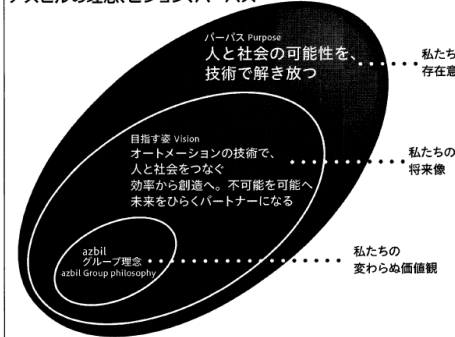


「人中心」、アズビルの理念

アズビルの理念、ビジョン、パーパス



アズビルグループは、創業精神「人の苦役からの解放」と「私たちは、人を中心としたオートメーション」で人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献します。という企業理念のもと、計画・制御の技術で工場・プラント、建物、ライフラインの現場を支えることで、働く人の安全・健康・ウェルビーイング（身の安全）の実現を取り組んできました。

失敗恐れず社員が自ら変革

「社員一人ひとりが自ら変革し、失敗を恐れず新たな挑戦に臨み出すような安さ・温さを大前提とした上で、「失敗を許容し、挑戦を称（たた）え、挑戦（もく）を許容する」という姿勢を貫き、そのために社員一人ひとりの意見を聞き入れ、挑戦と成長を後押ししています。」

■第103建物に見る進化と革新

研究開発拠点である藤沢テクノセンター（神奈川県藤沢市）に建つ第103建物は、快適と省エネルギーを実現するための役割を持った「ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）」志向の先進施設である。狙いは計画・制御技術とデータを活用し、省エネルギーを現場に定着させ、その効果をエビデンスとして示す省エネルギー性能最大化に尽きるといえる。

こうした取り組みは、25年度省エネ大賞（経済産業大臣賞）受賞もつながら、



アズビル社長
山本 清博

89年（平成）山武ハネウエル（現アズビル）入社。ビルディングオートメーション事業のマーケティング、営業などにおける事業責任者として実績を重ねる。17年執行役員 経営企画部長兼ビルシステムカンパニーマーケティング本部長、20年代表取締役社長執行役員社長、22年から現職。

オートメーションで社会に貢献

藤沢テクノセンター「快適・省エネ」両立目指す実験場



藤沢テクノセンターの第103建物では制御技術とデータを活用し、客先の現場への省エネ・省力化の定着と省エネ性能の最大化を図る

運用目線、体感に寄り添う空調制御

■1. 環境貢献：制御を軸に脱炭素と省力化を両立

第一は、設備を過度に複雑化せず、多様な負荷に追従する設計である。4管式ではなくシングル管式を採用し、「冷房リレーVAV」制御で研究開発の負荷変動に合わせて冷房・暖房を切り替える。買材を抑え、保守の省力化にもつながる。

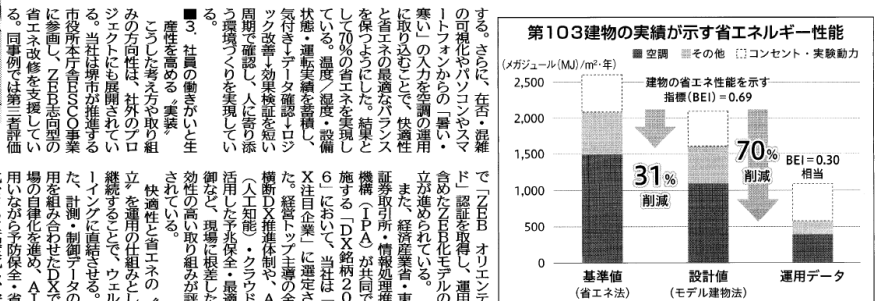
第二は、「必要な時だけ動く」を徹底した点だ。バルブ開度などの設備データを収集・解析し、外気温度などの効果が見込める条件では、熱源だけを止めてポンプまで停止させる。経路に頼りがちな判断をロジック化することで、夜間・休日も含めた運用の省力化・人文化を両立する。

第三は、設備を運用目線に集約したことである。空調を個別制御して室内の有効面積を確保し、保安検査を明確化することで、点検の安全性と省力化を高めることができた。

■2. 快適性：人に寄り添った環境づくり

快適で重視したのは、エリゴの負荷変動に対応しつつ、人の体感に寄り添った空調制御という点である。吹き出し口単位で風量を制御する「パーソナル空調」により、エリアごとの風量変動に即応し、温度差を抑える。

机のワイヤレスセンサでの近傍の環境を捉え、代表品現場では低減にくい体感のすべを低減



（注）ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）は、高断熱化や高効率設備による徹底した省エネルギーと、太陽光発電などの再生可能エネルギー創出を組み合わせ、建物の年間1次エネルギー消費量の収支を実質ゼロとすることを旨とした次世代建築物。

歩を進めていく。

得た知見をお客様に展開し、パーパスおよび私たちが目指す姿の実現に向け、私たちはこれからも着実に